

## これまでの作業班審議からの変更事項

STL/TTL作業班事務局

平成27年5月14日

第5回作業班以降、アドホックグループを3回(4月14日、4月28日、5月8日)開催し、主に他の無線局等との共用条件の検討を行った。

項目	変更前(第5回作業班:4月2日)	変更後(第6回作業班:5月14日)
(1)使用周波数帯	60MHz 帯及び 160MHz 帯	変更なし
(2)通信方式	単向通信方式	
(3)変調方式	64QAM(32QAM、16QAM、QPSKも可とする)	
(4)復調方式	同期検波方式	
(5)伝送容量	最大 480kbps	
(6)クロック周波数	80kHz	
(7)空中線電力の最大値	5W	
(8)偏波	水平偏波又は垂直偏波	
(9)占有周波数帯幅の許容値	96kHz	
(10)補助信号の伝送方式	制御信号等を多重して伝送	
(11)自動等化器	使用できる	
(12)交差偏波干渉補償器	使用しない	
(13)誤り訂正機能	必須	
(14)中継方式	再生中継方式(非再生中継方式も可とする)	
(15)無給電中継方式	使用しない	
(16)スペースダイバーシチ	使用できる	
(17)回線設計(受信入力)	標準受信入力 $-72+F_{mr}/2$ dBm、最大受信入力 $-52$ dBm	(60MHz 帯)標準受信入力 $-60$ dBm、最大受信入力 $-50$ dBm (160MHz 帯)標準受信入力 $-67$ dBm、最大受信入力 $-57$ dBm

(18)回線設計(回線品質)	回線信頼率 99.9%		変更なし			
(19)等価等方輻射電力	制限なし					
(20)混信保護値等	<u>1波あたりの干渉波電力に対する値</u> (dB)		全干渉波の総和 に対する値(dB)	干渉波電力に対する値(dB)		全干渉波の総和に 対する値(dB)
	同一経路	異経路		同一経路(dB)	異経路(dB)	
	39.8 (平常時)	35.8+Fmr (平常時)	31.3 (フェージング時)	36.7 (隣接:37.0、 隣々接:48.0) (平常時)	32.8 (隣接:33.1+Fmr、 隣々接:44.1+Fmr) (平常時)	31.3 (フェージング時)
	Fmrは所要フェージングマージン		Fmrは検討対象経路の所要フェージングマージン			
(21)C/Nth 値	31.5dB		変更なし			
(22)周波数の許容偏差	$10 \times 10^{-6}$					
(23)送信電力スペクトル特性	fo±50kHzにて-37dB以下、fo±150kHzにて-48dB以下					
(24)送受信ろ波特性	各種値					
(25)等価雑音帯域幅	80kHz					
(26)総合伝送特性	96kHz以下					
(27)送受信空中線特性	規定しない					
(28)交差偏波識別度	規定しない					
(29)フェージングマージン	$0.2 \times d + 6$ (d:距離(km))		$0.1 \times d$ (d:距離(km))			
(30)電波の型式	D1E、D7E、D7W、G1E、G7E、G7W		変更なし			
(31)スプリアス発射等	各種値					
(32)空中線電力の許容偏差	上限 20%、下限 50%					
(33)電波防護指針への適合	特段問題ない					